

## 「2020年度 全学共通科目に関する 教育改善点」報告

2020年度に新たに行った取り組みについてのみ記載

科目・項目	改善内容	改善の動機・理由等(該当するものに○を記入してください)					
		部会等提案	授業アンケート	自治会・学生懇談会等要望	担当教員要望	事務局提案	その他
基礎ゼミナール	共通ルーブリックを作成し、その運用を開始した。				○	○	
情報科目	授業案内ページを作成し、学生及び担当教員向けに各種資料(オンライン授業の実施方法、ソフトウェアの導入案内など)を公開した。				○	○	
	学術情報基盤センターと連携し、kibacoの利用方法に関する資料及び動画を作成・公開した。		○	○	○		
	情報倫理講習の方法を変更し、受講の有無を確認するチェックリストを作成・実施した。					○	
	資料の説明やコンピュータの操作方法に関する動画を作成し、情報リテラシー実践Ⅰ・ⅠAのコースウェアに追加した。	○			○		
	オンライン授業に適した活動や課題を設定するため、授業の全体構成を見直した。		○		○		
	学生個人の情報環境を考慮し、情報リテラシー実践ⅡA・ⅡCで使用するソフトウェアを変更した。				○		○
実践英語	・実践英語Ⅰabおよび実践英語Ⅱabにおいて、専任教員が策定したオンライン授業のためのガイドライン(出席の取り方、クラス運営の仕方、課題、試験の方法など)をもとに、専任・非常勤全授業担当者が、公正かつ柔軟な授業運営を行うべく努力した。 ・実践英語labにおいて、出版社と調整を図ることによって、教科書とその音声オンライン上で提示することができるようにした。						○
	・実践英語Ⅰab及びⅡabにおいて、kibacoとZoomの使い方に慣れない教員(特に非常勤講師)のために、MLによる案内・使用説明等を丹念に行った。また、質問に丁寧に答えることにより授業担当者の抱える問題や懸念を解決することに努力した。						
	実践英語ⅠcdおよびⅡcdにおいて、オンライン授業に向けたカリキュラムの修正、クラスの運営、試験の実施方法について協議し、実施した。 ・実践英語ⅠcdおよびⅡcdにおいて、会話やプレゼンテーションを中心とする授業をオンラインで行うために、カリキュラムの修正、クラスの運営方法、試験の実施方法について委託業者と協議し、可能な方法を探った。						
	・実践英語全科目において、インターネット環境が整わない学生への支援があることを、授業担当者を通じて伝えてもらうことにより、個々の学生の学習環境改善に努めた。						○
未修言語科目	なし						
理系共通基礎科目	オンライン授業が円滑に行えるよう、今までkibacoを使っていなかった教員も使えるようにして活用した				○		
	以前より詳しい授業資料を配布し、より頻繁にレポート課題を出した。				○		
教養・基盤科目	なし						
保健体育科目	前期末に、保健体育科目独自で授業改善アンケートを実施した	○					
	前期のオンライン授業の授業改善アンケート結果の報告および実践例等を共有するための報告会(体育FD)を実施した	○	○				
教室設備等	太陽光による温度上昇を抑制し、良好な室内環境の維持をはかるため、教室の窓に遮熱フィルムを設置した(1号館)。		○				○
	良好な室内環境確保に努めるため、各教室の温度と湿度の把握を、遠隔により行えるようにした。		○				○
	感染防止対策として、授業で使用する教室については授業開始前に机、椅子などの除菌を実施した。						○
その他	成績問合せに関して、セキュリティを確保した運用方法に改善した。					○	
	新たな学内無線LANサービスとして、1・6号館に光回線によるWi-Fiを整備した。(5Gの教育利用として、11・12号館も2021年度7月運用開始)					○	
	対面授業を同時配信するための機材として、WebカメラとUSBピンマイクを整備した。					○	
	経済的に困窮している学生に対して、Wi-Fiルーターやノートパソコンの貸出を行った。					○	
	オンライン授業に利用するテレビ会議システムを導入、運用を開始した(教員1400アカウント)。					○	
	オンライン授業によるレポート提出の増加に対し不正防止策を講じるため、剽窃検知ソフトウェアを導入した。					○	